

今こそ、ベトナム! 国際体験みらい塾 体験記

貧富の差と教育の関係

ベトナムは貧富の差が激しい。これはなぜだろうか。
そこで、貧富の差は教育環境が大きく関係していると考えた。
ベトナムの義務教育は小学校の5年間であり、都会では高校進学するのが当然とされているが、農村部や貧困が激しい地域では義務教育さえも修了していない子どもが存在する。特に教育環境が悪いのが女子である。女性には教育は必要がないと考える風習が少なからず存在するのである。その上、中学校からは多額の費用が掛かる為、親が裕福な家庭ではないと十分な教育が受けられないのだ。
今のベトナムはグローバル化が進んでいる。教育の中においても外国語の習得が所得に大きく関係してきている。英語と日本語、韓国語、中国語といったベトナムに会社を置いている企業に合わせた語学を学ぶことが重要となってきた。なぜ、語学が重要視されているかというと、語学だけでも学ぶことによって収入が何倍にも変化するからである。貧困を抜け出すにはしっかりとした教育が必要である。
ベトナムでは教育に対する姿勢が大きく変化しつつあるのである。
結果、高度な教育は収入がある家庭ではないと難しい環境にある。貧困から抜け出す為にも高度な教育を全地域に広めていくのが重要となってくるのである。



ベトナム人の労働現場

ベトナムに行く前

店や、ビルなどが少ない

日本円とベトナムの通貨の価値の違い

円	ドン
約 27 円	5000 ドン
約 110 円	20000 ドン
約 550 円	100000 ドン
約 2750 円	500000 ドン

働いている人が少ない

勤勉に働いていない

ベトナムに行ってみて

都会では、海外のお店（カフェやファーストフードなど）や飲食店が多く、**大きなビル**が軒を連ねていた。
地方では、**屋台**が多く、5000～1万ドン（**約 25 円～ 50 円**）で屋台の料理が食べることができる。

ベトナム人の人口は約9250万人でベトナム人の労働人口は、約5612万人（2013年推定値）である。実際にベトナムに行くと、お店には複数の店員がいた。
働いている男女の割合は女性の方が多く感じた。

現地のお店の様子を見ると、店員はまじめに仕事をしていた。ベトナムの労働力は男女がほぼ同じ数値である。勤勉さという点においては、ベトナム人女性は勤勉で良く働くと言われていた。東南アジア諸国に見られるような女系的な文化が浸透している。ベトナム人女性は社会的に重要な役割を果たしている。男性は、勤勉ではあるが、職場の人間関係がよくなかったり、福利厚生が悪いと、仕事に来ないことがあるようだ。



ベトナムに実際に足を運んでみて

メディアなどで報道されているのをよく目にする人も多いと思います。
しかし実際にベトナムに到着してみると…ほとんどバイク!!!
しかも、日本の様に交通規制がしっかりしてなく割り込みなんか当たり前!
優先順位は、早い者勝ちだとか!やはり、日本は安全な街だと肌で実感することができた1日となった。
また、クラクションを鳴らすことやパッシングで相手を威嚇することなど日常茶飯事!!!



こんなにも…!?初日の歓迎パーティーで出されたパクチー。一見大学の脇に生えている雑草と間違えうほど。ベトナムでは、1日3食必ずパクチーが食されている。好き嫌いは分かれるが口に合う人は合うらしい。ここで、パクチーについて少しだけ触れておこう。パクチーは、日本語でコリアンダー。中華料理、タイ料理、インド料理、ベトナム料理、メキシコ料理、ポルトガル料理などに広く用いられる。日本料理に用いられる食材ではないため、日本国内ではスーパーマーケットやデパートの地下食品売り場や大型食材店でも入手は困難であった。
しかし近年のエスニック料理ブームによって生のコリアンダーの需要が増加し、日本国内でも栽培が増え、入手しやすくなっている。また、家庭のプランターなどで栽培するのもしんどくはない。



んー……。一見泥沼に見えるこの写真。実は、有名なメコン川。ベトナムでは、環境に対してまだまだ考えが甘い!なんと、この川になんでも捨てていいとのこと。しかし、この川には、食用のエビや、魚などが生息している。実際に、食べてみたがこんなに泥臭いのは初めてである。やはり、現地の人々は慣れているのであろう。
日本人も、2週間も住めば慣れるというから驚きだ。



My Way…未知の可能性を秘めている。写真の道路は工業地帯に面している道路である。無限の可能性をなぜ秘めているのか。日系企業が多く起業している。なぜ、まともに、この写真を選んだのか。それは、自分たちの人生に置き換えることができるからである。今、ベトナムは日本の60年前とほぼ同じ環境に置かれている。現地に行き感じたことは、貧富の差が確実に多いということ。少年が道端で、宝くじを売っている。一方ホーチミン市に出たら、トヨタ、アウディ、ベンツなどが走っている。また、イオンモールは平均月収5万円という中間層をターゲットにしている。貧富の差が激しいのは、これから就職率が上がっていくにつれて解消されていくという。

ベトナムに行き学びを今後どのように生かせるのか考えてみた。まず、どのような状況に置かれてもコミュニケーションが一番大切ということ。言葉が通じなくても、ジェスチャーなどでわかりあう。国は違えど同じ人間なのだ。また、日系企業に訪れた際に心に沁みだ言葉。「日本人だから立場が上とか、ベトナム人だから立場がしたとかはない。」この言葉が一番心に沁みだ。これらの学びを、日本で広げていき様々な人々に情報発信をしていくのが一番大切だと思う。また、この学びは生涯の宝になると確信した。若いうちにSJC（周南青年会議所）の方々と海外研修に行ったこと。様々な角度からの視点で意見交換を行う。そこに、新たな意見が生まれる。自分自身の価値観が変わった研修になった。
最後に、この研修にご尽力頂いた全ての方々に感謝をし、研修で出会うことのできた全ての人々とのご縁を今後も大切にしていきたい。



日本と違い生活の足になっているのはバイクです。歩く文化がないです。
8割がバイクで2割が車・自転車・バスです。現地の人で歩いている人はいないようです。大学生もバイク登校していました。足のない観光客はタクシーが生命線ですね。ベトナムの道路標識はほとんど日本と変わりませんが一方通行と右左折禁止が多いようです。
信号が赤の場合でも右折は可能です。



～子どもは乗車人数に含まれない??～
ベトナムに行くとバイクの3人乗り、4人乗りをよく見かけました。もちろんこれも違法なのですが例外もあるようです。それが、「ある年齢以下の子供は1人で、年齢によっては2人で追加で乗れる」というもの。例えば家族4人でバイクに乗っている場合、4人乗りではあります子供が小さければ合法だそうです。また、レンタルバイクで多いのが100ccクラスのバイクです。ほとんどが無免許で借りて乗っているそうです。警察に捕まっても交差点次第でなんとかなるそうです。ぜひ、ベトナムに行ったらバイクに乗って体感してみてください。

～歩行者でなく大きい車順??～
日本では歩行者が優先なのが当たり前です。しかしベトナムでは大型車優先となっています。というのも、大型車が突っ込んできたら避けざるをえないからだそうです。実際にバスやトラックが直進車を制して右左折する光景はよく見かけました。この場合バイクは止まって待つしかありません。交差点においては対向直進車がいても左折をしなくてはならない前にあります。直進の場合も交差点では対向車に注意しましょう。バスに乗っているとバイクは自然と道を開けてくれます。逆にバイク優先だったらバイクが多すぎて車は先に進まないですね。歩いて道を渡る時は注意を払いましょう。
僕は、怖かったので渡るのを諦めましたけどね・・・(笑)



～クラクションが鳴りやまない??～
ベトナムでは至るところからクラクションの音が聞こえてきます。このクラクションは、「自分がここに居る」というサインであり、決して怒っているわけではないようです。最初はこの運転手とても運転あらいなと思って笑うしかありません。信号のない交差点を通行する場合や、他の車が幅寄せしてきた場合などにクラクションを使い、自分の存在に気づいてもらうことが重要だそうです。運転に慣れない人ほど安全のために使わないといけませんね。いろんな所からクラクションがなっているのうさいますけど。日本でクラクション鳴らしながら運転したら周りから変な目で見られて誰も近づいてこないですよ。

ベトナム交通ルール

日本から見たベトナムの福祉事情

